

## くふうしました！

### (01)壁厚の利用

わが家はコンクリート系のプレハブですのでP C板で床や壁が構成されています。内断熱ですので外気に接するP C板の室内側には当然断熱材が貼り付けられます。P C板で直接、外気に接しない壁でも、その壁の一部に外気に接する壁とのつながりがあれば、壁全体に断熱材が貼り込まれます。これはヒートブリッジ防止のためと、仕上がりの収まりのためです。



我が家では、ちょっと工夫し、ヒートブリッジに影響しない部分を一部分、断熱材を削除した形で内装を仕上げてもらい、DIYでIKEAの有孔ボードを組込みました。上下はアクセントで木製枠を取り付け、下側の枠は上面に、わずかに傾斜を付けることでボールペンを置く場所になっています。

断熱材の厚み分20mmですので、わずかな埋め込み量ですが、有孔ボードが壁内にすっきり収まりました。

インターホンの親機も、同様の方法で取付ました。こちらは気休め程度ですが、この場所がリビングからキッチンへの通路のために20mmの効果は大きいです。

(有孔ボードにする以前はコルクボードでしたが劣化のため取替えました)

2003/06/07作成 、 2024/12/21更新